

協会ニュース 傑作集～ガイドの役に立つ話、あっと驚く話、心温まる話～（後半）				
2	2020年(令和2年)	9月号(280号)	川上由	一年越しの感謝状
2	2022年(令和5年)	1月号(296号)	土山裕美	私の「推し」 里程碑(りていいし)
3	2021年(令和3年)	2月号(285号)	柿澤和代	石器時代、堺に人がいた「南花田遺跡」
4	2021年(令和4年)	7月号(290号)	森田兼雄	堺に残る神話の旧跡
5	2021年(令和3年)	10月号(293号)	土井健一	堺の塩湯(潮湯)の起源から現在まで
6	2021年(令和3年)	11月号(294号)	西川史郎	横寝地蔵さん 立ち上がる
7	2022年(令和4年)	9月号(304号)	辻定子	金岡にはりっぱな地蔵様が12体もある
8	2022年(令和4年)	10月号(305号)	川上由	神戸事件の話(妙國寺勉強会より)
9	2023年(令和5年)	3月号(310号)	北野しどり	怖かった～、でもやって良かった防災体験
10	2023年(令和5年)	9月号(316号)	和田千香	えっ、木の埴輪?!
10	2023年(令和6年)	9月号(316号)	和田千香	えっ、堺で偽金作り?!
11	2023年(令和6年)	4月号(311号)	川上由	大仙公園の桜守
12	2023年(令和6年)	11月号(318号)	柴田友宏	戦争を終わらせた男 鈴木貫太郎の生誕地を巡る
13	2021年(令和3年)	7月号(291号)	土井健一	警視総監と堺の『浪花組』曾我長

一年越しの感謝状

【川上由】

6月初旬「南宗寺様気付、永澤様」宛てに一通の手紙が届きました。内容は一年以上前に南宗寺を訪れたお客様からの感謝の手紙でした。解説を聞いて、どうしても浅草の雷門を訪れたくなったそうです。何故浅草に行きたくなったかは、皆さんもお解りだと思います。そしてその雷門で「松下幸之助」と「三木啓次郎」の名前が刻まれていた事を発見した時の感動をどうしても伝えたかったそうで、写真を同封して送っていただきました。それがこの写真です。



コロナ禍での緊急事態宣言で、行きたくても行けなかったお客様が、その緊急事態宣言が解除になった翌日に、完全防備で浅草に行かれ、閑散とした雷門で遂にその看板を発見しました。そしてその感動をどうしてもガイドをしてくれた永澤さんに伝えたくて筆を取られたそうです。私たちは、月

間・年間で沢山のお客様に解説をしていますので、記憶は薄れてしまうかもしれません。しかしお客様は旅の思い出として、しっかり覚えて下さっています。改めてお客様へのおもてなしの大切さを感じた「一年越しの感謝状」でした。



右図のプレート

2022年1月号(296号)

私の「推し」里程石(りていいし)

【土山 裕美】

高野街道・堺～河内長野 街道歩きの旅会員の皆様ならよくご存知の堺区榎元町に建つ「十三里石」。西高野街道の起点である大小路と高野山女人堂を結ぶ道中に、ほぼ一里間隔で建てられた里程石の一つです。側面には「安政四年」の刻字が。なんと160年以上も風雨にさらされながら同じ場所で佇む石。その表面は茶色く、縦じわのような筋が何本もついています(明日のわが身のように)。初めて出会った時には愛おしささえ感じて思わず撫でてしまいました。傍らのお地蔵さんにも合掌。ずっと見守ってくれているのですね。

茱萸木村(くみのきむら、現大阪狭山市)の農民、小左衛門と五兵衛が発起人となり寄付を募り、わずか8ヶ月あまりで建立したとのこと。彼らの熱い志に胸打たれます。里程石は設置された13基すべてが現存していることにも驚きです。(市内では東区関茶屋に十二里石)

すぐ西には市役所庁舎がそびえる住宅地の中で十三里石だけが時間が止まったかのよう。

里程石周辺には榎宝篋印塔や向泉寺閼伽井跡などおなじみの歴史スポットがあります。しばらくご無沙汰してるなあと思われる方、お正月休みに近場でタイムトリップしてみませんか。

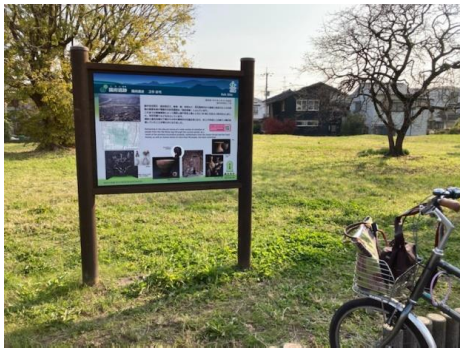


石器時代、堺に人がいた！「南花田遺跡」

【柿澤 和代】

昭和 62 年 4 月 25 日、読売新聞朝刊一面のトップ記事！！

「日本列島で最古最大の旧石器時代の集落跡が 24 日までに大阪府堺市の南花田遺跡で見つかった。発掘した府教委文化財保護課によると 20 万年前までにできた『大阪層群』と呼ばれる地層に形成されており『国府（こう）型ナイフ形石器』出現期（2 万 2 千年前）までさかのぼる。面積は 1 万平方メートルを超え、炉付き住居跡など 3 戸、石器の制作工房跡 2 基を含む多数の遺構が出土。石器もあらゆる種類の 2,500 点以上が見つかった。（中略）この村の出現は後期石器時代を代表するといわれる国



旧国府（こう）遺跡 藤井寺市
大和川と石川合流地点にある遺跡

府型の文化の発生の謎に迫り、旧石器人たちの生活を解明する画期的発見といえる」この遺跡は大泉緑地の北側、府道南花田鳳西町線の建設で事前調査されていたものであるが、このニュースに接したとき、日本列島に人が住みつき、わが町、堺にも縄文以前、石器時代から人々の営みがあったのだと思うとワクワク感が止まらなかった。南花田の取材ではこの遺跡あとを必死に探し求めたが、道路下に埋め戻されたか看板すらなく、まったく痕跡をとどめていなかった。残暑の厳しい暑い日だった。おそらく、このあたりであろうと思われる場所にそびえたつ鉄塔を見上げながら、2 万 2 千年前に思いを馳せる。

この頃はウルム氷期と呼ばれ、日本列島は大陸とは陸続きであった。マンモスやナウマンゾウ等の大型獣を追って、人々は日本に渡ってきた。当時の大阪や堺は現代の札幌ぐらいの気温だったらしい。氷結の為、海水面は数百メートル低くなり、大阪湾や瀬戸内海は陸地化され狩猟生活を営んでいた。南花田遺跡のすぐ近くには「おかりば公園」と名付けられた先人が狩りをしていたであろう場所が公園名として残っている。

私たちの住む堺、太古にどのような地殻変動が起きたのであろうか？毎日仰ぎ見る金剛・葛城山脈は、大阪側にはなだらかな山容を見せながら奈良側は急峻だ。反対に生駒山脈は奈良側にはゆるやかな傾斜を描くが、河内平野に対しては急傾斜にそそり立つ。両山脈には逆の地殻の圧力がかかったのであろう。その接点にある二上山、相反する地殻の圧力を受けながら、のたうち、くねり、マグマを噴き出しながら活発な火山活動をしたであろうことが想像される。そこからもたらされた貴重な岩石、良質な石器の材料、サヌカイト！二上山は太古の昔から、その秀麗な姿だけでなく人々に生活の用具としての貴重な材料を提供してくれていた山だと思うと胸が熱くなる。



旧石器人のアトリエ羽曳野市 翠鳥園
二上山から採集したサヌカイトの石器工房

2000 年 11 月 5 日、自ら拾い集めた石器を土中に埋め旧石器時代を捏造したスキャンダルが報じられ、考古学界が一時地に落ちた感があった。あの事件を乗り越え、いまでも真剣に考古学に取り組んでいる方々がいることも忘れてはならない。気の遠くなるような地道な作業の繰り返し、どの遺物も過去からの伝達物として小石であろうが木片であろうが大切に大切に扱う姿。日本の原形を追い求めている人々の地道な活動と信念にエールを送ろう。遺跡が発見されるたびに華々しい報道のされ方をするが、往々にして旧遺跡は新しい開発事業が発端となって発見されることが多い。遺跡・遺物を通じて祖先の足跡をたどり、復元されるもよし、新しい時代の人がある上に新しい営みをするのもよし。私たちが暮らしている土地の土層の中には、まだまだ発見されていない未知の遺跡が眠っているのかもしれない。その土地土地に眠る歴史の声なき声、染みついた記憶。記事にできたら写真で浮かび上がらせ、スケッチで描き残せたらと・・・そんなことを思い起させてくれた南花田の取材であった

堺に残る神話の旧跡

【森田 兼夫】

国づくりの神と神話で伝えられるイザナギ・イザナミの二神の中で、最初に生まれたのが蛭子命ですが、三歳の時に葦舟（あしぶね）に乗せて流されます。漂着したのが、この浜でその時に持っていた五色の石を当地に置いたところから石津の地名になったといわれています。

命を祀ったのが石津太神社ですが、その前に石が埋められました。毎年12月14日に当社で「ヤッサイ・ホッサイ」の火祭りが行われますが、これは命が凍死寸前だったので、浜の漁師たちが108つのわら束を積んで火を焚いて、命の身体を温めて助けたと言う故事から現在まで継承されています。

太陽の神として高天原を支配していたアマテラスの皇孫ニギノミコトは、下界を治めるためにアマテラスの命によりサルタヒコの先導で日向の高千穂の峰におくだりになりました。その時に、コノハナサクヤヒメという美しい乙女に出会われました。一目惚れで二人は親しくなられ、やがて二人の子供が誕生しました。これが海幸彦と山幸彦の兄弟です。



石津太神社



石津太神社の五色の石

ある時、山幸彦は「兄さん、たまには交代しませんか」と兄の海幸彦が大事にしていた釣り具を借りて海へ出かけました。ところが慣れない海で釣り針を失ってしまいました。途方に暮れて困っているとシオツチノカミが助けに来て、舟に乗って海神（わだつみ）の宮に案内してくれました。

そこで海神の娘のトヨタマヒメを見るなりその美しさに愛に溺れ二人は親愛の、幸福生活を続けます。ところが、3年の月日は瞬く間に過ぎました。

ある日、山幸彦が国へ帰りたいたいと申し出ます。それを聞いたトヨタマヒメは「帰ったら兄さんは怒るでしょう。その時は、この珠を使いなさい」と言って、満珠と干珠を土産にくれました。国へ帰った山幸彦は予想したように兄の海幸彦にいじめられますが、トヨタマヒメが教えてくれたように、二つの珠を上手に使って難を逃れ、やがて二人は仲良くなります。必要がなくなった干珠を投じたのが宿院にある住吉大社頓宮の中にある飯匙堀（いいがいぼり）で、由来の通りいくら雨が降っても水がたまらないそうです。なお満珠の方は住吉の大海神社に納められました。



宿院頓宮の飯匙堀



住吉 大海神社の玉ノ井

堺の塩湯(潮風呂)の起源から現在まで

【土井 健一】



利品の杜大絵図文久3年(1863)

塩風呂丁

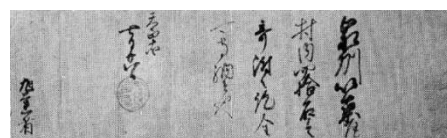
堺の塩湯は古くからの長い歴史をもちます。

最も古い堺の塩湯の伝えは、約 1330 年前に、行基菩薩が掘られた井戸中に、自ら彫られた薬師如来石像を祀られると付近の井戸は真水が湧いているのに、こんこんと塩水が湧き出て、この霊水を焚き浴すると諸病が平癒すると大変評判で遠近より多くの人が集まった事に由来します。

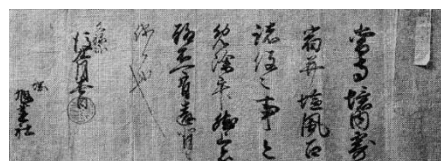


薬師仏石像

塩湯は、潮風呂とも呼ばれていましたが、行基井戸の潮風呂は、大町西裏町(塩風呂丁)(現在の和食さと宿院店北側辺り・利品の杜ロビー床大絵図参照)にあったが、この土地が後に豪商八万貫屋宗徳、妙徳夫妻の所有となっていた。ところが文亀2年(1502)正月3日の妙徳の夢の中に毘沙門天が現れて、このような霊験あらたかな井戸を個人で所有していると井戸は涸れると云うお告げを蒙って、妙徳は驚き、早速その塩風呂と宅地とを旭蓮社に寄進し、旭蓮社 薬師佛石像當寺別に寺域に毘沙門堂を造立して、弘法大師の作と伝える高さ六寸の毘沙門天の尊像を安置し祀りました。毘沙門堂は戦災を免れ現存します。



豊太閣御朱印状 稲田四十石寄付 旭蓮社蔵



豊太閣御朱印状 塩風呂諸役免除 旭蓮社蔵

平安時代、堺の塩湯は歌人、藤原定頼(さだより)権大納言中古三十六歌仙の一人の歌集 寛徳2年(1045)『権中納言定頼卿集』に歌に詞書(ことばがき)して「九月ばかりさか井と云所にしほゆあみにおはしけるに ひめぎみの御もとに」と題して「すみよしの ながみのうらもわすられて 都へとのみ 急がるる哉」と詠まれていることから、平安時代の藤原氏の盛んなころ京都から公家達が、「さか井」に塩湯浴にやって来ていたことが解ります。

豊太閣秀吉公も有馬入浴の帰りに、この毘沙門堂に参詣し、この塩風呂に浴すると、噂の如く皮膚病によく効いたので、早速、天正18年(1590)石田隠岐守正継(まさつぐ)(三成の父)に泉州築尾村において稲田四十石の御朱印状と、入浴規定を作り塩風呂諸役免除の御朱印状を旭蓮社に下賜しました。(御朱印状は旭蓮社に現存) 明治45年(1912)、阪堺電気軌道が自社線への乗客誘致策として、大浜公園地に堺市公会堂を建設し、翌大正2(1913)には、コテージ風の大浜潮湯が開業しました。隣接の多くの料亭旅館にも潮風呂が設置され賑わいましたが昭和9年9月の室戸台風で壊滅的被害を受けます。幸いに遺った大浜潮湯別館は高名な建築家辰野金吾設計で、翌年昭和10年河内長野に移築され南天苑本館(国登録有形文化財)として現存します。堺市の塩湯として今では、堺区出島海岸通りの湊潮湯がわずか一ヶ所残り頑張っています。



住吉・堺名所并豪商案内記 大町汐風

参考文献) 山田智旭『本朝廬山旭蓮社 - 今と昔 -』旭蓮社 三善貞司『大阪伝承地誌集成』清文堂
堺市『堺市史 第七巻(別編)』衣笠一閑『堺鑑』文台屋治郎兵衛

横寝地蔵さん 立ち上がる

【西川 史朗】

堺は他都市と比べお地蔵さんの多い処で、石津地区もかなり古い年代のものや新しいお地蔵さんが街のあちこちに祀られています。地蔵信仰は鎌倉時代より盛んになったようで、お地蔵さんにいろんな願いをかけそれぞれに名前が付けられています。紀州街道を南に下がり南海本線石津川駅前通りと交差する南西側に線香の煙の絶えない地蔵尊を祀った地蔵堂がありました。これが地域では「横寝の地蔵さん」と謂われるお地蔵さんで、元々石津川の川向う(南側)に祀られていたものを昭和の初めにこのお地蔵さんの持ち主の屋敷の一角に地蔵堂を建てて移したものであり幕末ごろの版木には枝ぶりのよい松の根元に、いまあるものと同じ家形の厨子に納まって安置されている様子が描かれています。

石仏の周囲の石造の手水鉢、花入にそれぞれ安政4年(1857)・文久3年(1863)の年号が表示されていることから、本来は如来として作られたものの、横倒しになったその姿から庶民にとっては最も身近な「横寝地蔵」「こけ地蔵」として村の人々に信仰され、幕末に数多くの人々の喜捨によって厨子・供養具などが整備されたものと思われます。又、伝えられるところによると、その昔行基菩薩がこの地に来られ、長雨の為に動けなくなり石津川の橋下で雨宿りをされた時に橋げたの石に爪で彫られたのがこのお地蔵さんであるともいわれています。地蔵堂や内部のしつらえや飾りの設営、管理は勿論の事、毎日の地蔵堂の扉の開閉、清掃からお供えの花や蠟燭・線香等の準備に至るまでお地蔵さんの維持管理は全て持ち主が個人的にやってこられました。

現在でも眼病治癒(地蔵尊に供えた水で目を洗うと眼病が治る)・水難よけ(昔、漁師の網にかかったものを引き上げたとの伝説がある)などで信仰をあつめている本地蔵尊は、下石津村(慶安3年(1650)に石津村が上下二村に分村)の江戸後期～幕末期の歴史と信仰のあり方を考える上で欠かすことができないものであり、数年前までは地蔵盆の時には近隣の子供たちで大変にぎわっていましたが児童数の減少と共に地蔵盆も中止となり、今では地域の方や通りすがりの方がお線香をあげてお参りされたり、評判を聞きつけた観光客の方が訪れたりしていました。

この様な維持管理を将来にわたって持ち主が個人的に行うのも限界があるという事で、どこか受入先を探していたそうですがなかなか見つからず、地区の共同墓地の無縁塚に持っていくかと言う話も出ていました。

その話を聞いたのでそれは無いでしょうと思い、博物館の先生に相談したところ紆余曲折ありましたが博物館で受け入れて下さる事になりました。このお地蔵さん、元々は立っておられた筈ですがいつの時代からか?横に寝る形で安置され民間信仰の対象になっていましたが、博物館の石造物の専門家の先生の予備調査では室町時代にまで遡る可能性が大との事で博物館では文化財として受け入れ、博物館展示室出口側のガラス張り廊下の東側(旧堺燈台頭部や石棺の反対側)の臨江庵の燈籠の隣に製作当初にあったであろう立った状態で展示される事になりました。10月11日に設置工事が完了しましたのでそれ以降何時でも拝観出来るようになりました。尚、移設と同時に博物館の専門の方が詳細調査をされ、調査結果の論文が来年度の博物館研究報告(館報)に掲載される予定になっています。

川崎源太郎『住吉堺名所并豪商案内記』 南谷新七



金岡町はりっぱな地蔵様が 12 体もある

【辻 定子】

「金岡（金田）」の歴史を知る町のご長老 I 氏にお話を聞く事が出来ました。

1400 年前から人々の往来が盛んにあった竹内街道沿いに豊かな町の「金岡町」があります。有名な金岡神社を中心に 11 町会が神社を取り巻くように、また、竹内街道沿いに町が広がっています。各町会毎（11 町会）にお地蔵様があり大切にお祀りされています。お地蔵様を作られたのは、「子どもの守り神・病の侵入防止・五穀豊穡・旅の安全祈願」の 4 つの目的がありました。金岡町は昔、「金田」「金太」と地名が書かれていました。台地になってるので水が少なく、堺は元々気候的にも雨が少ないので稲作には向かない地域だったのです。「金田千軒」といわれる大きな村落までになるには、池を組織的にみんなで造ったそうです。それもしっかりしたリーダーの下で機能的に作られていったそうです。

現在、12 体のお地蔵様がありますが、12 の池がこの地域に造られたそうです。池造りの組織は、江戸時代に多くあった水争いも殆どなく、うまく水の配分をされたようです。また、「室町時代には浄土真宗などの仏教寺院・道場を中心に作られた寺内町であったため、村の人々はとても信心深かったです。そして、江戸時代前には日置荘・長曾根荘と並んで、鋳物師（いもじ）の居住地でもありました。江戸時代は庶民による寺社詣が盛んになり、人の往来が増えました。田畑でできた収穫物を堺や大和へと運ぶ人たちが竹内街道はにぎわっていました」と言う「金岡」地域の深い歴史をお聞きし、この街に寺院が 8 か寺、お地蔵様が 12 体、有名な金岡神社もあることに納得しました。

町会（自治会）は 11 ですが、12 体のお地蔵様があるのは、昭和 40 年代半ば頃から池が埋め立てられて、大きな下津池団地やエバグリーン住宅が建設され、それに伴う学校公共施設（公民館含む）が出来、今後の発展を祈願して、昭和 52 年春に「光明地蔵尊」と「宝篋印塔」が建設されたからです。それでお地蔵様は、金岡町に 12 体お祀りされています。名前だけ以下に紹介しておきたいと思います。

左上から順に、西御坊地蔵、東御坊地蔵、大道地蔵、延命地蔵（堂之辻）、中之町地蔵、九頭神（くすがみ）地蔵（芝の内）、如意地蔵（九頭神）、安産地蔵（二軒茶屋）、井之尻地蔵、西之辻地蔵、馬場町地蔵、光明地蔵、以上 12 体のお地蔵様ですが、九頭神地蔵と光明地蔵は九頭龍池の近くに建てられています。



神戸事件の話(妙國寺勉強会より)

【川上 由】

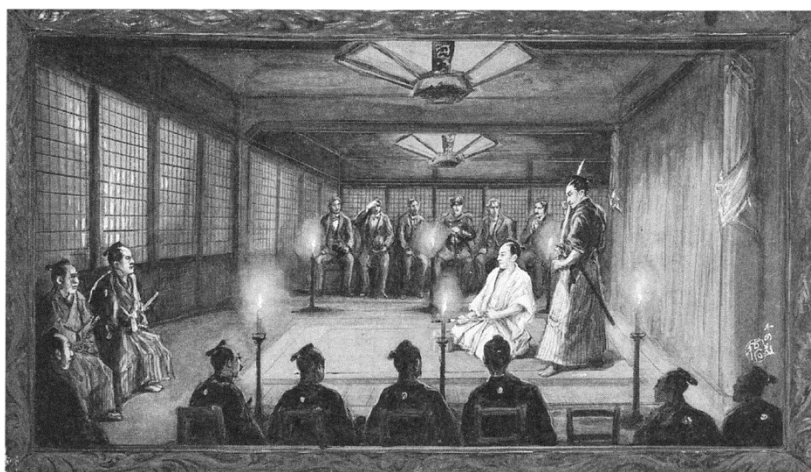
私たちが妙國寺の配置に付き、堺事件の話をするとき、序章として神戸事件の話をするかたもいらっしゃると思います。しかしながらその神戸事件については、「堺事件の一月ほど前に起きた事件」という程度しか話をしないのではないのでしょうか。今回妙國寺でこの神戸事件について、歴史研究家で俳優でもある後藤勝徳氏の講演会が開催されました。約 200 年間続いた鎖国制度が解けて、欧米諸国との交流が始まったころ、風俗習慣、価値観、言葉の違う諸外国との間で、様々なトラブルが起きました。1862 年に起きた「生麦事件」はその代表的な事件であったことは一般のかたもご存じですが、「神戸事件」と「堺事件」は知られていないのも事実です。



神戸事件は 1868 年 1 月に起こった明治時代最初の外交問題です。神戸の警備にあたっていた備前岡山藩の移動中に現在の三宮神社付近で、二人の仏兵が軍列を横切ろうとしました。隊長の瀧善三郎は軍列の先に回るよう諭しましたが、その制止もお構いなく無理に横切ろうとしてきました。善三郎が槍の鐙(こじり・刃先と反対側の端)で仏兵の背中を突きこれを退けました。これは殺意がなかった事を明確に意味しています。しかし仏兵は拳銃を向けて発砲しようとしたそうです。それに対応して日本側も威嚇射撃を空地に向けて発砲しました。

この行為から話は大きくなり、英仏軍は 4 日間神戸を占拠し、「なんの理由もなく外国人に攻撃を加えた重大な敵対行為」として国際問題にまで発展してしまうのです。

列強の武力侵攻を恐れた弱腰の明治新政府は全面的に非を認めてしまい、外国側の要請を全てのおこなになります。その要請には威嚇射撃を命じた隊長、瀧善三郎の処刑まで含まれていました。この事件で日本側、外国側とも死亡者は一人も出ていないのです。この理不尽な決定に対して善三郎は未練がましいことなど一切口にせず、祖国と大切な人を戦から護るため粛々とその運命を受け入れました。各国公司の見守る中、見事に自害を成し遂げました。



瀧善三郎切腹の図 (カネテツデリカフーズ株式会社所蔵)

各国公司は、武士道の覚悟の凄まじい迫力に青ざめ「この国の人間は一筋縄ではいかないぞ」という印象を強く残したと思われます。この様子は後日世界中で話題となり、かなりのセンセーションを起こしたそうです。瀧の切腹を詳細に記した新渡戸稲造著「武士道」が 1899 年に英語で刊行され、またたく間に世界中でベストセラーになったのです。

怖かった～、でもやって良かった防災体験

【北野 しどり】



堺市美原区の堺市防災センターで災害時に必要とされる知識と技術を学んできました。映像による災害学習、地震体験、煙・暗闇避難体験、消火体験、応急救護体験、防災情報コーナーをツアー形式で回りました。所要時間は 90 分でした。学習でも災害の怖さが伝わりましたが、自身の体験では 28 年前の阪神淡路大震災があります。震源地ではマグニチュード 7.3、堺は震度 4 でしたが怖いくらい家が揺れて恐怖で何もできずにいた記憶が残っています。トルコ南部で 6 日に発生した地震はマグニチュード 7.8 で同じ大陸型の阪神淡路大震災よりも大きく、また

「いつ起きてもおかしくない」と言われ続けている南海トラフ巨大地震は発生すると震度 7 となる可能性があるほか、10 メートルを超える大津波の襲来が想定されています。大震災では倒壊した建物や家具による圧死で亡くなった人が多いと聞きました。地震の映像を見ながら震度 7 の地震の揺れの体験をしましたが、地震対策をした場合としていない場合の被害の差や、とっさの判断で変わる運命など、普段からの意識と備えの大切さが身に沁みました。一緒に体験した仲間も「もしも現実になった時に知っているか知らないかでは大違い、体験を生かしたいと思いました」「一番の印象は地震体験。地震に遭遇する映像を見ながら、震度 7 の揺れを体験。本当に怖かったです。普段からの意識と備えの大切さを実感しました」「体験を繰り返し受けて身を守る術を学ぼうと思いました」と語っています。実践では暗闇で壁を伝いながら出口に向かいました。何も見えず焦りました。消火器も実際に使ったのは初めて



で、ピンを抜いてから 15 秒しか放射時間がないことを知りました。応急救護の「心肺蘇生」「AED」体験では人形を使って学習し、一刻を争う救命には協力が大切とあらためて気付かされました。大規模災害発生時に広域的な災害応急対策拠点施設として 2022 年にオープンしましたが、もし災害が起こった場合は災害対応の拠点施設になるため、支援物資の倉庫、大規模な訓練設備があり、緊急輸送路の確保と防災対策が準備されています。ぜひ一度行ってみることをおすすめします。



- ・ 開館時間：9：00～17：15
- ・ 定休日：月曜日(祝休日は翌日)第 3 火曜日、年末年始
- ・ 入館料：無料(体験コースは予約優先、1 人から参加可)
- ・ 体験時間 90 分



《堺 ミニ知識 1》

えっ、堺で偽金作り？！

【和田 千香】

「偽金を作って一儲けしよう！」

と、一獲千金を狙ったわけではないのです。

1485 年（文明 17 年）のことです。当時、流通していた中国銭が足りなくなっていました。「さあ、困った大変だ。どうしよう」ということになり苦肉の策で作ったのが「模鑄銭（もちゅうせん）」です。

もちろんこれは堺だけのことではありません。博多、京都、鎌倉など全国 31 ヶ所で作られました。堺では、堺区甲斐町西 1 丁や宿院西 1 丁など堺環濠都市遺跡の計 11 ヶ所の発掘調査地点から模鑄造銭鑄型が出土されています。模鑄銭は中国銭を模（かたど）って作ります。従来の教科書認定では、中世の日本では通貨を生産しておらず、もっぱら中国銭を使用していたと記されていましたが、中世にも銭貨を国内生産していたことが実証されました。これは、中世貨幣経済史上極めて重要な意味を持つことなのです。

偽金造りは意外にも鑄造技術の向上の一端を担っていたともいえるのかもしれません。



模鑄銭鑄型（開元通宝）

2023 年 9 月号(316 号)

《堺 ミニ知識 2》

えっ、木の埴輪？！

【和田 千香】

「埴輪って土で作られているんじゃないの！」と、思われた方も多いと思います。

堺市が平成 24 年から 4 年間ニサンザイ古墳の調査を行いました。その際、前方部から多くの木の埴輪（木製品）が出土しました。木製品は、そのほとんどが菌の発生により朽ちてしましますが、ニサンザイ古墳では、水面下深くの泥に囲まれていたので、酸素が少なく朽ちにくかったのだそうです。

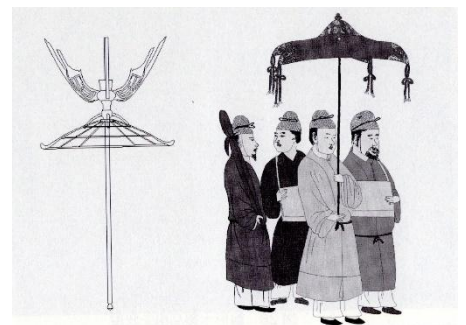
写真真ん中の笠形木製品は蓋形(きぬがさ)埴輪の立飾りに似ています。スカシ孔や細かいひれの質感がまさにそのものです。木の鋤、木の埴輪は祭祀で使われていたそうです。（堺市文化財課講演会録 第 12 集） 全国的にも珍しい、木の埴輪。堺市博物館を訪れる際は是非ともお見逃しなく。



ニサンザイ古墳出土の展示



蓋形埴輪の立飾り・笠形木製品



蓋復元図



大仙公園の桜守



【川上 由】

皆さんは「桜守(さくらもり)」という言葉をご存じでしょうか、桜のシーズンになると時々登場する言葉です。

桜の木がいつまでも元気で花を咲かせてくれるように、健康状態を見守って処置をするのが桜守ですが、それは「樹木医」のことかという、そうではないんです。まず桜を観察するという作業が大変地道でコツコツした積み重ねです。花はいつ咲いたのか、つぼみの数はどうか、花が咲いたあとも葉はいつ出た、茂り方はどうか、枝はどれだけ伸びたのか、害虫に荒らされていないか、紅葉の赤み具合は、いつ落葉したのか・・・

1 年を通じて起こる桜の変化で健康状態をチェックします。木は自分の力だけで育つのではなく、土壌や四季の気候の中で育っている、周囲の環境の変化や時間の流れもよく知っていなければなりません。この地道な気の遠くなるような作業は、桜に「愛情」をもっていないと絶対につとまりません。そんな方々が大仙公園にいらっしゃいます。阪神淡路大震災の後、本格的に活動をはじめた皆さんが 30 年近く大仙の桜に愛情を注いで、50 種類以上 1,000 本以上の桜を見守っているのです。この「桜守」の方々が存在しているのを知らない堺市民がほとんどではないでしょうか。

その名は「D・S・P」という皆様です。「大仙公園・桜・プロジェクト」の略になります。筆者は、去年初めて D・S・P の皆様とご一緒させていただく機会がありました。晩秋の日に公園内を桜の観察をしながら一緒に歩きました。もちろん桜は咲いていません、一部の二季咲きの桜が、ちらほらと咲いている程度です。



D.S.P の皆さんと

「この子はもう瀕死の状況でした。思い切ってここに移して、土壌も入れ替えてみました。いまはこんなに元気になりました」「この子はとなりのクスノキの陰になり、なかなか育ってくれませんでした。クスノキの枝を思い切って剪定してもらい、今ではどんどん大きくなりました」このような話をたくさん聞かせていただきました。まるで自分の娘のように一本一本の桜に愛情を注いでいるのが、筆者にはひしひしと伝わってきます。

今年も大仙公園の桜は見事に咲きました。そして私たちが十分楽しませてくれました。しかし、それはこの桜守の方々の努力があったから、私たちは楽しめるのです。1,000 人の娘たちを育ててくれた 8 人の桜守、D・S・P の皆様のおかげであることを忘れないでください。

桜守は周囲から尊敬の意を込めて「あの人は桜守だ」と言われる名誉職と言えるのではないのでしょうか。

戦争を終わらせた男 鈴木貫太郎の生誕地を巡る

【柴田 友宏】



鈴木貫太郎写真提供：国立国会図書館所蔵

鈴木貫太郎は現在の千葉県野田市にあった関宿藩の飛び地である和泉国伏尾新田（現：堺市中区伏尾）で生まれました。総理大臣時代の写真を見れば親近感を覚えます。鈴木家のルーツも、その殿様である関宿藩、久世家（三河・額田郷）も三河の方です。

今話題の徳川家康の領地である岡崎も三河・額田郷です。また、久世家が譜代大名であり「桜田門外の変」の後に老中首座になり、公武合体（皇女和宮）など歴史に残る活躍をした事も納得できます。実は、私の出身地も三河であります。私の田舎の小学校2クラス56人の生徒の苗字は鈴木さん、永井さん、富田さん（有名人は富田勲さん：音楽家としてジャングル大帝レオ、新日本紀行などを作曲）の三つ苗字が過半数を占めていました。私の母方の実家の旧町名は額田郡額田町であり苗字も鈴木で、母方の伯父は鈴木貫太郎の顔に似ていることも私にとっては、親近感もてる理由かもしれません。

さて、今回のご案内は総人数21名でした。スタートしてすぐに「アベノハルカス」を、途中の「えのき橋」からは「明石海峡大橋」を望みながら緑道を歩きました。一ヶ所目は国の重要文化財の本殿がある多治速比売神社で、ここには鈴木貫太郎の玉垣があります。この神社で鈴木貫太郎とたか夫人の二人が、二・二六事件で瀕死の状態から生還され、翌年の昭和12年にお礼参りをしました。たか夫人は凛とした芯の強い女性の印象です。

そして多門寺と上神谷街道の石標を見て、本日の目玉である江戸時代に統領庄屋であった中辻家を訪問しました。中辻家は昭和26年に日本初の福祉法人として養老院を作りました。その法人名は「福生会」といい、貫太郎の「福生積善」（善を積み幸せになる）との揮毫から取られています。

話は逸れますが、あの大谷選手が「グラウンドのごみを拾えば野球の神様が微笑みホームラン王となる」という話を思い出しました。当日は福生会理事長自ら、中辻家と鈴木家の歴史について話してくださいました。そして江戸時代には中辻家は藩札（米札）を発行しており、その本物を拝見することもできました。

貫太郎は代官所ではなく、この中辻家で生まれたとの逸話もありました。また、佐幕派であった久世藩の鈴木家が明治初期の混乱期で困っていた時に、関東に戻る路銀を工面したのが中辻家だったという話も聞けました。その関係なのか、鈴木家の人たちは貫太郎が大人になってから二度三度と中辻家を訪れているそうです。ここを後にした直後に伏尾のだんじりを真近に見て記念撮影をし、行基さんゆかりの原池公園で昼食をとりました。

昼食後は久世家のお位牌のある黄檗宗海岸寺で、ご住職にお寺の歴史を説明していただき、数多くの立派な仏像を拝見しました。最後に千利休が茶会で使うために、毎日大坂城へ運んだ水が出たという清水大師堂をお参りして、無事ツアーを終えることができました。最後に完璧な資料作成してくださった小川さん、楨さん、渡辺さんをはじめとするメンバーの方々にお礼を申し上げます。



鈴木貫太郎 生誕の碑

相撲界の紛争に一肌脱いだ警視總監と堺の『浪花組』曾我長【土井 健一】

昨今、日本相撲協会はコロナ禍のなか力士の不祥事などで苦境に遭遇しているが、今までも順調に、発展してきた訳ではない。

大正 12 年の 1 月には東京相撲の力士が待遇の改善を要求、「養老金（横綱一万円、大関七千円、幕内五千円、十両三千円）を倍額にすること、本場所の収入からの歩方を一割から一割五分に増額すること、一度十両になった者は陥落しても相当の処置をすること」の三箇条を決議したが、自主解決を目指す横綱・大関の奮励も空しくいよいよ事態は悪化、交渉は決裂し力士会に加入していない三段目以下と横綱・大関の力士で本場所を開く異常事態となった。八代海軍大将・赤池警視總監が調停者となり、関係者を警視庁の会議室に招き、「養老金は現在の五割増」という折衷案を提示、紛擾(ふんじょう)を極めた協会側と力士会も、赤池警視總監の肝煎りで双方異議なく纏まった。しかし騒動で横綱大錦はこの事件の調停に自ら乗り出したが解決できず、赤池警視總監のその任を譲った責任と、春日野理事は事件発生の責任で辞任という貴重な人材を失った。

この事件は大阪相撲にも同年 5 月に飛び火し、力士会（幕下十枚目以上の東西全力士）が養老金の倍額要求書を提出した。こうして、大阪相撲は力士会を除いたまま開幕する。力士会側は、堺の大浜にある丸万楼に立てこもる。ここで、調停する人物があらわれた。大日本人物名鑑に「国家有為の材たり」と名を記される堺の神明町 1 丁の土木建設請負業浪花組 曾我長三郎という堺の義侠の浪花政と呼ばれた親分である。

警視總監が調停の任を負った東京相撲とは実に対照的なことに、大阪相撲は左官業の親分が間に立ったのだ。長三郎は力士会に面談、交渉するが力士たちはますます要求のボルテージを上げていく。さすがに長三郎も呆れて、その場の手を引くこととなった。当時、すでに弱体化していた大阪相撲の屋台骨はきしみを上げて崩れようとした。

ただでさえも力士、協会員の数が少ない大阪相撲協会で、中核力士 14 人、親方 8 人がやめたこのあとも力士たちは廃業、引退する。ときの幕内力士 35 人のうち 17 人がいなくなったのだ。弱体化した協会にとどめを刺すには十分なダメージだった。

この「竜神事件」と呼ばれる事件によって、6 月に再開された本場所は東西の番付が組めず片側だけ 16 人の取り組みとなった。大阪相撲はなおも 4 場所、興行を続けたが衰退を挽回することは出来ず、仲介者を得て東京相撲と合併することになる。最後の大阪相撲本場所は 大正 15 年 1 月、当時日本領だった台湾、台北市で行われた。

この曾我長三郎の名を刻んだ石が、方違神社にあります。“一金、五百圓 曾我長三郎”と寄進の額も、はっきり刻まれています。ちなみに当時の五百圓は、大まかに今の五百万円くらいです。他にも、住吉大社の初辰さん楠瑠社の鳥居、我孫子観音寺の玉垣など多くの寄進が見られます。ご夫妻で 69 年間、営まれる喫茶店【茶房カオル】（堺区北向陽町 1 丁）の、お洒落で品のあるマダム曾我孝子さんは浪花組・曾我長三郎の娘さんです。



方違神社に寄進された
曾我長三郎の石碑